

地域密着型サービス評価の自己評価票(西 ユニット)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一人ひとりが築き上げた生活や、馴染みの関係を継続することの支援の大切さを確認し、それを理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はカンファレンス等で話し合う際や、日常的に理念を念頭に置いている。また、利用者一人ひとりの大切な人、物、場所を大切にしたいという思いを持ち、日々の言葉かけや外出支援を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットへの記載、家族会、運営推進会議のみでなく、外出時には事前に職員が伺い、事業所の説明や役割を伝え、理念の浸透に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩や外出時には積極的に近隣の人たちへ挨拶をし、事業所が身近なものと感じてもらえるよう努めている。近所の方から花をいただいたり、運動会へ招待されるなどの関係づくりができてきている。事業所で慰問等があるときには声をかけ、気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、行事に積極的に参加している。また自治会に加入し、地域に馴染むよう努めている。事業所としてゴミ拾い等に参加することも検討中。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員間で話し合い、地域の方々への取組みについて検討するも、市町村等からの要望も少なく、実現には至っていない。	○	職員の技術・経験等を見極め、今後は積極的に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を職員間で話し合い、全員で自己評価を行っている。問題点をあげ改善に向けての計画を作成し実践している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの現状の報告等を行い、利用者や家族、地域住民の方々から意見を頂戴しサービスの改善・解決へ向けて努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	解決困難事例など施設だけで抱え込まず、市担当者へ相談し助言をいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の協力を得て、施設に出張していただき勉強会を実施し、必要な方へはそれらを活用できるよう支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等の時間を使い、高齢者の虐待について話し合いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し、一度目を通していただいてから、再び利用料金や医療連携体制などについて詳しく解りやすく説明し、理解、同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見を出しやすいように働きかけている。意見や言動からその思いを探るように心がけている。それを職員間で話し合い、解決するようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や毎月の広報誌を利用し利用者の状況を伝えている。また、金銭の出納、服薬についての情報は定期的、あるいは必要に応じて報告している。また面会時にはケース記録を見ていただいたり近況を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見がサービスの質の向上につながることを家族会、面会時に説明し、理解していただいている。家族会等では一声かけて意見をもらえるような雰囲気作りをしている。その意見は職員間で話し合い、対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の際に時間を設け職員の意見や提案を聞き、運営者、管理者で話し合いを行い、対応している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者のニーズや生活時間に合わせたローテーションを組んでいる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットのスタッフを固定化しなじみの職員によるケアを心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修へは、正職員、パートに関係なく参加しているが、段階に応じた研修参加の仕組みが出来ていない。	○ 計画をたて、段階に応じて法人内外への研修を受けられるように取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他のグループホームへの訪問、見学し、意見交換などを行い、日常業務への課題の見直し、質の向上をはかっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室にはTV、寝具類を配置したり、勤務時間中であっても喫煙ができる環境をつくり、気分転換ができるように配慮している。また、職員同士の人間関係などを配慮した勤務作りに努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の実績や能力に応じて、向上心を持って働けるよう仕事を分担している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で本人・家族の両面から生活状態を把握するよう努めている。また、家族の不安や困っている事の核心についても把握し、本人・家族共に不安のない入居を目指し、取り組んでいる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯について熱心に話を聴くようにしている。そして次の段階の相談につなげている。また、金銭面や生活面等、細かな事も理解出来るよう話し合いを行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、本人や家族の思い、状況等を確認し、施設として改善に向けた支援の提案や相談を行いながら必要なサービスを提供できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの退院後やむを得ず、すぐにサービスを利用される場合が多いため、家族や関係者には利用者が施設に馴染めるまで頻繁に面会に来ていただくよう働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは出来るだけ多くの時間を過ごし、思いを理解、共感するように努め、共に暮らしている。また得意なことを教えてもらうような場面を多くもち、支え合っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話を十分に行い、思いを大切にしている。介護方法についても相談し、職員側だけの介護にならないように努め、一緒に支え合っていく協力体制をとっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月のイベントに家族参加してもらえるよう広報、面会、電話で声をかけている。利用者との関係を把握し、時には職員が間に入り、または裏方にまわり、両者の関係がより良くなるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や利用者から情報を得て、馴染みの場所への外食、買い物、美容院等の支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブル席の配置、外出する時は利用者の関係を配慮している。孤立しがちな利用者には特に注意を払い、職員が間をとりもち、お茶や食事、活動を通じ接点を持つような機会をつくっている。利用者の気持ちを利用者が聞いてくれたり、入院中のお見舞いに行っていたりもする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移った方にも、必要に応じた方法で相談や支援に応じることを伝え、行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や言動、表情から希望、意向の把握に努めている。また家族から情報をもらい、利用者側の視点に立って話し合いを行っていくことを常に念頭に置いている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話から、また家族に本人を知ることの大切さを伝えた上で過去の情報を提供してもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムを理解するだけでなく、言動からも把握するよう努めている。また小さな気づき、発見も記録や申し送りで報告している。それをケアのヒントにし生かしていくことに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に日頃の関わりの中での思いや意見を聴きそれらを反映させるよう、個人的に外出へ出かけたり等努めている。職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価し合い、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族、本人の要望に応じてその都度見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に働きかけや、気づきを記入しているが、変化の少ない利用者への記入が少なくケアにつなげていく記録に乏しい。	○	すべての利用者を注意深く観察し、具体的にケースに記入できるようにし、ケアにつなげたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて外出・通院の送迎を支援したり、医療機関と密に連絡を取り合うなどして、できるだけ要望に応じた生活を送ってもらえるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	周辺の公共施設やボランティアに協力してもらえるように働きかけ、地域の資源を活用している。また、周辺施設利用前に、施設の紹介をし、理解、協力を得られるようにしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のお祭りや近隣の学校の文化祭など、利用者の状況や希望に応じて参加して楽しんでいる。また本人の希望や体調に応じて個別に支援するよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護が必要と思われる利用者には、地域包括支援センターと協力して利用できるよう支援している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する病院すべてにおいて利用者・家族が選択している。通院介助の方法も話し合い、合意を得ている。健康状態に変化があれば、その都度家族に連絡し、受診すること、また結果を定期的、随時に報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬意を持って接し、プライバシーに配慮した記録の仕方を職員間で決めている。言葉や語調等で利用者を傷つけないよう職員間で注意、助言をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせた説明を心がけ、意思を尊重している。職員が決めるのではなく選択できる質問をするなどの工夫をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおまか決まっているが、買い物、入浴、食事時間等は個々の状態に合わせ臨機応変に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容院へ行ったり、希望者には染髪を行っている。毎日の化粧や行事時に好みの服を着ての外出などの支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託業者が行っている。配膳・片付け・おやつ作りを利用者と職員が共に行っている。職員が利用者と同テーブルにて食事をとることを心がけており、食事時間が楽しい時になるよう努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は利用者の嗜好物を理解しており、酒・たばこ・飲み物等、様子を見ながら楽しめるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行っている。失敗してしまった場合でも自尊心を傷つけないような言葉かけで手早く対応するよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の好みの時間帯に入浴してもらえよう努めている。裸になることへの羞恥心をミーティングで話し合い、その配慮を忘れず支援している。また、同性介護を基本としている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	活動と休息を個々に、またはその日の状態に合わせて取り入れている。また夜はスムーズに入眠できるようゆっくり落ち着いた夕食、会話を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことや出来そうなことをやってもらう場面作りは積極的に行っているも、一部の利用者を中心となっている。	○	一部の利用者だけでなく、一人ひとりに役割や楽しみ事の支援ができるように努めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一律で職員が金銭管理している。	○	利用者・家族と話し合い、お金を持つことの大切さを考え、個々の力に応じて管理や支払方法を検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて日常的に散歩・買い物・図書館・ドライブ等に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事業者側の提供するイベントではなく、個人を対象とした外出の機会を設けている。また遠くへの外出希望実現のために利用者・家族・医療機関と相談し、協力を得ながら計画し、勤務調整などを行いながら実現させている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しているほか、コードレス電話を使って自室でゆっくり電話ができるよう気を配っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に入っていただけるような雰囲気作りを心がけている。面会時間外であっても、いつでも訪ねて来てもらえるようにしている。ロビーや居室を利用してもらい気兼ねなく会話ができる空間を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で勉強会を実施している。また身体拘束はしないということを共有している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関に鍵をかけず自由に庭先・畑へ散歩できるようになっている。また、利用者が出て行く気配を職員は察知し、声をかけたり、見守るようにしている。ただし、門を一步出ると車の往来がある公道であるため、利用者の安全を考え鍵をかけている。また家族にもその同意を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに利用者を見守りやすいところに職員がいて、プライバシーに配慮しながら全員を把握するよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者にとって注意の必要なものかを検討し、その度合いによって保管の仕方を分けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測できる危険を検討し、事故を未然に防ぐよう努めているが、ヒヤリハットを記録し、危険への気づきをまとめることが出来ていない。	○	ヒヤリハットの記録の徹底、それを活用し、事故防止につなげていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会はしたが、定期的には行っていない。	○	計画をたて定期的の実施できるよう、努め、その場になってもあわてずに対応できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練や避難経路について助言をいただいている。非常用食料を準備したり、マニュアル、緊急連絡網を作成している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測されるリスクと、リスクは高くなるものの抑圧のない暮らしの大切さを家族に伝え、理解してもらえるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック以外にも普段の様子を職員が把握しており、異変に気づいたら職員間で情報を共有している。ケース記録、申し送りを確実に言い、医療機関につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診内容や薬の変更を記録し、共有している。また月2回薬剤師による薬の目的・副作用について説明を受けている。服薬内容をファイリングしており、情報も家族へ報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供している。水分量の把握や散歩をすすめたり、腹部をマッサージするなど、自然な排便ができるよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯は就寝前に洗浄をしている。また個々に応じて歯磨きの声かけや、足りない所は介助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は一人ひとりの1日の量を毎日記録し、おおまかに把握している。量の低下があれば個別に献立を替えるなど、食がすすむような工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎月のミーティング時にその時期にあった感染症について職員間で話し合っている。医療機関や他事業所と連絡を取り、感染症の流行の情報交換をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫・台所・おしぼり等の衛生管理法について決めており、職員間は徹底して行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事業所のまわりの垣根の高さを調整したり、玄関まわりに花を植えたり、明るい雰囲気をつくっている。家族会や運営推進会議で意見をもらって親しみやすさの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭い、光、音がないように、トイレの汚れ、採光の調整、TVや話し声の大きさに気を配り、居心地のよい空間づくりに努めている。家族会や運営推進会議で話題にし、意見をもらうようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、エントランス、テラス、にいすやテーブルを置き、一人、または少人数で過ごせるような場所を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みの物の持ち込みは少ないものの、その都度、家族に働きかけて、少しずつではあるが、その持ちこみの量は増えてきている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えや温度調節は常に意識している。トイレの汚れはこまめにチェックし、清掃を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド、ポータブルトイレの位置、高さは利用者と相談し決めている。物干しの高さや家具の配置も利用者の意見を聞いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不安や混乱を招くような物品について検討し、取り外す、場所を変える等、速やかに対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物内だけでなく、外まわりをきれいに整え、利用者が楽しめるよう花・畑・いす・テーブルを用意している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域で家族と一緒に暮らしてきた時の環境と同様に、施設へ入居後も本人の馴染みの人間関係や、馴染みの商店や美容院等を引き続き利用できるよう支援している。また、受診する病院においても利用者・家族に選択してもらい、必要があれば通院介助も行い支援している。施設に入居後も、入居する以前の生活が継続できるよう努力している。また、家族にもその必要性を説明し、理解、協力してもらっている。

利用者の視点に立ち、考え、接するように努めている。また、嗜好品等はできるだけ早急に要望に応えられるよう努めている。